

# 平成29年度 第4回高田区地域協議会 次 第

日時：平成29年7月18日（火）午後6時30分～  
会場：高田地区公民館 第6研修室

## 1 開会

## 2 議題等の確認

## 3 報告

（1）平成29年度地域活動支援事業について（報告）

## 4 議題

（1）自主的審議事項

雁木整備事業補助金制度の充実を求めることについて

（2）自主的審議に係る提案

高田公園周辺の雨水排水対策について

## 5 事務連絡

## 6 閉会

資料No.1

平成29年度 地域活動支援事業 審査採択結果 (高田区地域協議会)

【高田区】 当区の地域活動資金の配分枠: 12,500,000 審査採点した委員数 20人 凡例: 予算ボーダーライン ・ 点数ボーダーライン (20人×25点÷2=250点)

順位	整理番号	事業名	提案者名	事業費(円)	補助希望額(円)	優先採択方針	評価結果								配分額残額(円)	地域協議会の審査採択結果	
							基本審査(人)		共通審査(点)								
							適合する	適合しない	公益性	必要性	実現性	参加性	発展性	合計			平均点
1	1	お馬出しプロジェクト事業	お馬出しプロジェクト	922,580	820,000	○	20	0	75	68	77	77	74	371	18.6	11,680,000	採択
2	13	第6回寺町まちづくりフェスタを中心としたまちづくり事業	寺町まちづくり協議会	913,248	890,000	○	19	1	74	68	74	75	71	362	18.1	10,790,000	採択
3	6	青田川環境マップと桜保存事業	青田川を愛する会	1,085,600	1,050,000	○	19	1	72	70	70	63	64	339	17.0	9,740,000	採択
4	19	高田の文化・芸術・文芸を継承する事業	高田文化協会	328,800	322,000	○	20	0	70	68	70	64	66	338	16.9	9,418,000	採択
5	17	映像を通じた街なか活性プロジェクト事業	特定非営利活動法人街なか映画館再生委員会	532,450	440,000	○	20	0	68	65	66	67	68	334	16.7	8,978,000	採択
	22	“日本風鈴街道in雁木2017”事業	越後高田・雁木ねっとわーく	787,520	780,000	○	20	0	70	64	67	69	64	334	16.7	8,198,000	採択
7	5	雁木通りまつり 音楽・仮装大会事業	南三世代交流プラザ運営協議会	1,081,640	1,050,000	○	19	1	65	66	69	70	62	332	16.6	7,148,000	採択
	14	あそびからつなげるまちおこし事業	上越おやこ劇場	613,000	530,000	○	20	0	66	66	69	66	65	332	16.6	6,618,000	採択
9	4	ふれあい広場・雁木の町並み飾り事業	南本町三丁目まちづくり協議会	747,256	730,000	○	19	1	65	57	67	66	60	315	15.8	5,888,000	採択
10	3	高田世界館・高田小町美化・緑化運動事業	本町6丁目町内会	193,110	173,000	○	20	0	65	62	67	58	62	314	15.7	5,715,000	採択
	7	第35回上越美術協会展の開催事業(於:ミューゼ雪小町)	上越美術協会	228,168	99,000	○	20	0	65	60	67	62	60	314	15.7	5,616,000	採択
12	10	NEO浄興寺プロジェクト(旧浄興寺手づくり市)事業	NEO浄興寺プロジェクト(旧浄興寺手づくり市実行委員会)	1,292,395	1,150,000	○	19	1	63	59	63	64	64	313	15.7	4,466,000	採択
13	9	北部地域の文化・賑わい創出する事業	高田区北部振興会	879,478	700,000	○	19	1	61	62	65	66	58	312	15.6	3,766,000	採択
	16	高田瞽女の文化普及事業	NPO法人高田瞽女の文化を保存・発信する会	655,400	600,000	○	19	1	64	61	66	62	59	312	15.6	3,166,000	採択
15	11	浄興寺大門通り「花の小径」事業	浄興寺大門通りまちづくり協議会	104,193	100,000	○	19	1	62	61	65	58	58	304	15.2	3,066,000	採択
16	12	松平忠輝公ヒーロープロジェクト(郷土の英雄化事業)	郷土の誇り継承委員会	270,000	250,000	○	19	1	64	59	59	62	59	303	15.2	2,816,000	採択
17	8	北城四ヶ町合同夏祭り事業	北城四ヶ町合同夏祭り実行委員会	164,160	164,000	○	19	1	60	60	64	61	56	301	15.1	2,652,000	採択
18	18	地域資源を活かした高田まちづくり事業	特定非営利活動法人 街なみFocus	856,460	856,000	○	19	1	61	59	64	56	59	299	15.0	1,796,000	採択
19	21	松平忠輝公と五郎八姫活動事業	松平忠輝公と五郎八姫の会	237,752	237,000	○	19	1	63	57	60	59	57	296	14.8	1,559,000	採択
20	20	高田区のみなさんと共に「ハガキを使った地域観光のPR活動」事業	ちりつも観光プロジェクト	810,976	810,000	○	19	1	62	57	60	55	58	292	14.6	749,000	採択
21	15	上越市高田から賑わいを発信する「上越写真フェア」事業	上越写真連盟	569,280	550,000	○	18	2	53	48	54	51	47	253	12.7	199,000	採択
22	2	「わたしたちの町」の歴史を調べその成果を出版する事業	善光寺町歴史研究会	553,500	553,000	○	17	3	48	48	51	43	43	233	11.7	-354,000	不採択
合計				13,826,966	12,854,000												
うち採択した事業の計				13,273,466	12,301,000												

	採択件数	補助希望額計
採択計	21件	12,301千円
予算残額		199千円

## 自主的審議事項 雁木に関する意見 (平成29年度第1回地域協議会)

(平成29年度第2回高田区地域協議会 資料No.2 から抜粋)

## 連たんしていなくてよい

- 両端が駐車場になっている家が1軒だけでもと雁木を作っているように、本当に雁木を守っていこうという人もいるので、連たんしていなくても補助できるようにすべき。
- 駐車場や空き家が多く、地主や家主が遠くにいたり所在不明であったりして、全員の同意は集められない。
- 両側が駐車場になっているのに、一緒に雁木をつくるようにと言っても無理。連たんしていれば一番良いが、現状は難しい。
- 雁木通りでは、駐車場で雁木がない所も通るのだから、公共性はある。両側が駐車場で一軒だけ雁木がある所は、雪や雨の日に歩くとほっとする。連たんしていないと公共性がないというのは違う。

## 連たんは必要

- 一軒だけで補助金を受けるのではなく、地域の人たちが、雪が多いからみんなで助け合おうという気持ちになることが大切で、その結果、景観に配慮した雁木が連なるようになる。
- 雁木は一軒ではなく雁木通りになることで公共性が保たれる。一軒の雁木では、市の税金を使うことに理解が得られない。雁木がつながり、通りとしてみんなが通るといふ公共性が必要。
- 個々に雁木の補助をした場合、連たんしていない不連続な雁木になってしまう。それで、雪国の風情や景観が保てるか疑問。

## 補助額や補助手続

- 補助限度額は間口3間の標準工事費から算出され、それより間口が広い場合も同額だが、それより大きい間口の場合の対応がないと不公平になる。
- 交付申請書類の提出期限が決められているが、建築時期に合わせていつでも受け付ける制度にするべき。

平成29年6月12日

## 高田区地域協議会自主的審議に係る提案書

高田区地域協議会

会長 西山要耕様

提案者名 杉本敏宏

下記事項について、上越市地域自治区の設置に関する条例第7条第1項の既定に基づき、審議するよう提案します。

## 記

審議する事項	高田公園外堀の抜本的な治水対策を求める意見書の提出について
内容	<p>【提案事由】</p> <p>2016年7月26日は高田祇園祭の最終日でしたが、激しい降雨のため神輿の川下りが中止になるほどでした。近隣では、藤巻、木田新田、藤新田、木田に避難準備情報が出され、避難所も開設されました。そしてこの豪雨は翌27日まで続き、24時間雨量で200mmを超え、一日の降雨量の記録を塗り替えました。</p> <p>大変な豪雨にもかかわらず、関川本川の水位は泥水が河川敷に迫っている程度で、水戸の川は設置された排水ポンプを稼働しなくても自然流下していました。</p> <p>高田区においても高田公園の外堀周辺（西城町2丁目、北城町2丁目、東城町3丁目）で、避難するまでには至りませんでした。冠水被害が発生しました。この被災地は、1995年7月11～12日のいわゆる「7・11水害」の際にも冠水するなど外堀周辺の冠水常襲地で、近隣住民からは以前から抜本対策の要望が出されてきました。異常気象が続いていますから、抜本的な対策を建てる必要があります。</p> <p>高田公園外堀は、東城町2丁目に関川から取水している善九郎用水が図書館南側の「流入口」で南堀に接続され、西堀を経て北堀に至り、本城町の上越総合技術高校の北側の「流出口」から水戸の川に排水され、東城町3丁目地内を複雑に巡回して、稲田橋上流で再び関川に戻されています。</p> <p>高田公園外堀に流入する地域＝集水域は、東城町、南城町、西城町2丁目、北城町2丁目、本城町と広大な地域です。ちなみに図書館南側の「流入口」の施設には、流融雪のための施設だと表示されていて、通常は稼働していないようです。従って外堀の水位は、その集水域に降った雨量に左右されるということになります。外堀の面積も広いため、多少の降雨は貯水できるものの、集中豪雨には耐えられず、溢水してしまうと思われま。</p>



溢水を引き起こす原因としては、水戸の川に排出される上越総合技術高校北側の「流出口」があまりにも小さくて（幅が1 mほどの水路が2本）洪水を流下させきれず、北城高校前の道路の冠水を引き起こしているものといえます。

昨年の豪雨による冠水そのものは27日には引いてしまいましたが、北堀の水位は28日になっても下がっておらず、水戸の川には急流が流れていました。

水戸の川は曲がりくねっていて、川幅も狭いため、東城町3丁目地内でも溢水を引き起こしています。従って、「流出口」を広げて流量を増やすことは不可能であり、有効な解決策とはいえません。水戸の川は三面護岸ですから、安全性の問題も出てきます。

#### 【今後の見通し・解決策】

解決策としては、北堀から関川に直通するバイパスを設けることが有効と考えられます。

また、西堀と北堀を結ぶ導管の拡大が必要です。

解決のためには新潟県や国の支援がどうしても必要です。市として解決の具体案を作成し、関係方面との精力的な交渉により、早期に高田公園外堀の水害対策を施されるよう求めるものです。

平成29年7月5日

高田公園外堀周辺地域の抜本的な治水対策、水戸の川の排水能力向上などを関係機関に働きかけることを求める意見書の提出について（補足資料：追加箇所を下線）

杉本敏宏 委員

### 【提案内容】

1. 高田公園外堀周辺地域の抜本的な治水対策
2. 外堀の排水路である水戸の川の排水能力の向上
3. 各堀を繋ぐ導水管を拡張すること

以上3点の早急な改善を求める。

これらの事業は、国・県・用水組合などが深く関わって来ることから、上越市として抜本的な対策を検討し、関係機関・団体に強力に働きかけること。

### 【提案事由】

2016年7月26日は高田祇園祭の最終日でしたが、激しい降雨のため神輿の川下りが中止になるほどでした。近隣では、藤巻、木田新田、藤新田、木田に避難準備情報が出され、避難所も開設されました。そしてこの豪雨は翌27日まで続き、24時間雨量で200mmを超え、一日の降雨量の記録を塗り替えました。

大変な豪雨にもかかわらず、関川本川の水位は泥水が河川敷に迫っている程度で、水戸の川は設置された排水ポンプを稼働しなくても自然流下していました。

高田区においても高田公園の外堀周辺（西城町2丁目、北城町2丁目、東城町3丁目）で、避難するまでには至りませんでした。冠水被害が発生しました。この被災地は、1995年7月11～12日のいわゆる「7・11水害」の際にも冠水するなど外堀周辺の冠水常襲地で、近隣住民からは以前から抜本対策の要望が出されていました。異常気象が続いていますから、抜本的な対策をたてる必要があります。

2017年6月30日夜半からの豪雨は、前年を超える激しいものでした。7月1日午後、水戸の川が増水し、東城町3丁目地内で溢水の恐れが出てきたことから、北堀からの流出口を調整し、溢水を未然に防ぎましたが、逆に北堀からの溢水のリスクが高まったといえます。

7月1日午後3時過ぎに、稲田橋付近では、河川敷の雑草が水没するほどまで、関川の水位が上昇しました。さらに水戸の川の水位が排水ポンプ稼働基準近くになったため、水戸の川の関川本川合流部の水門を閉鎖し、排水ポンプを2機とも稼働しました。水門が完全閉鎖するまでの約10分間（完全閉鎖しないと排水ポンプのスイッチが入らない）に水戸の川の水位はさらに30cm以上上昇し、排水を開始してからも水位は下がらず、一進一退を繰り返していました。

## **【高田公園外堀・水戸の川の現況と課題】**

水戸の川は、稲田橋上流左岸にある水門から関川に接続しています。この水門直前で、北城雨水幹線が合流し、さらに数十m上に排水機場が設置されています。

北城雨水幹線の集水域は、北城町全域、西城町1丁目、東本町3～5丁目の一部を含む広大な地域です。

水戸の川上流の高田公園外堀は、東城町2丁目に関川から取水している善九郎用水が図書館南側の「流入口」で南堀に接続され、西堀を経て北堀に至り、本城町の上越総合技術高校の北側の「流出口」から水戸の川に排水され、東城町3丁目地内を複雑に巡回して、稲田橋上流で再び関川に戻されています。

高田公園外堀に流入する地域＝集水域は、東城町、南城町、西城町2丁目、北城町2丁目、本城町と広大な地域です。ちなみに図書館南側の「流入口」の施設には、流融雪のための施設だと表示されていて、通常は稼働していないようです。従って外堀の水位は、その集水域に降った雨量に左右されるということになります。外堀の面積も広いため、多少の降雨は貯水できるものの、集中豪雨には耐えられず、溢水してしまうと思われれます。

溢水を引き起こす原因としては、水戸の川に排出される上越総合技術高校北側の「流出口」があまりにも小さくて（幅が1mほどの水路が2本）洪水を流下させきれず、北城高校前の道路の冠水を引き起こしているものといえます。

昨年の豪雨による冠水そのものは27日には引いてしまいましたが、北堀の水位は28日になっても下がっておらず、水戸の川には急流が流れていました。

水戸の川は曲がりくねっていて、川幅も狭いため、東城町3丁目地内でも溢水を引き起こしています。従って、「流出口」を広げて流量を増やすことは不可能であり、有効な解決策とはいえません。水戸の川は三面護岸ですから、安全性の問題も出てきます。

2017年7月豪雨では、排水機場に現在設置されている2機の排水ポンプでは対応しきれないことが分かりました。この排水機場は、3機の排水ポンプを設置できる設計になっていますので、増設して対応すべきです。

## **【今後の見通し・解決策】**

解決策としては、

1. 北堀から関川に直通するバイパスを設け、直接関川に放流すること。
2. 排水機場に1機増設し、排水能力に余裕を持たせること。
3. また、西堀と北堀を結ぶ導管の拡大すること。

解決のためには新潟県や国の支援がどうしても必要です。市として解決の具体案を作成し、関係方面との精力的な交渉により、早期に高田公園外堀の水害対策を施されるよう求めるものです。